

---

# タイムリミット

大巻 雅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

タイムリミット

### 【Nコード】

N6621C

### 【作者名】

大巻 雅

### 【あらすじ】

14歳の時に本気の恋愛をした。それからあたしはドンドン純粋な恋愛が出来なくなりドンドンワガママな恋愛をするようになって  
いる自分が嫌い本当は人をまっすぐ愛せないでもあたしには出来ない  
い

## ブログ

誰だって気付くのが遅すぎたコトあるよね。

あたしはいつもそうなるタイプ。

特に恋愛でね。

いつも相手を傷つけて、自分も傷つけて…そんな恋愛しか出来ないし…

そしていつも最低だって自分を追い詰める…

だったら恋愛なんかしなきゃいいのに、あたしは恋愛をしてないと空っぽのぬいぐるみになる…

一人ぼっちでいたいのに一人は寂しいから嫌だ

ワガママなあたし

本当にウンザリする

あたしが一番好きな場所  
自分んちのマンションの屋上

都内だけとまだ少し自然が多くて高いマンションが少ないこの町が  
あたしは大好きだ

「<sup>レイ</sup>怜衣」

誰かがあたしの名前を呼んだ

「<sup>マサル</sup>勝か」

勝はあたしの横に座ってタバコに火を着ける

勝もあたしも14歳の中2。

関係は幼なじみ。

この辺りにしては大きいこのマンションに昔から住んでるタメ数人はみんな幼なじみだ。

「なあ怜衣オマエ今男いるの？」

急な質問。

「いないよ」

半年前に別れたタメの男とは付き合ってたというコトかわからなかった。

だから別れた。

あたしはタバコに火を着けて続けた

「そいや勝今まで彼女いないよね？どしたん？好きな女でも出来た？」

クスクス笑いながら勝の横に寝転びからかった。

「そりや俺だって人好きになったりするさ」  
意外にも真面目な答え。

「へえ」

その時寝転んであたしより大きな影に包まれた。

その直後温かい感触を唇に感じた。

それがあたしのファーストキスだった。あまりに突然のコトにびっくりし、言葉を失うあたし。

「付き合っちゃおうか？」

勝の提案にあたしは頷いた。

何も考えずに。

だって頭がぼーとして…

頷いた瞬間あたしは勝に抱き締められた

とても温かくて心地よかった

そういえばさっきまで吸っていたタバコが指先から消えていた…ド  
コイツタンダロ…

これが恋なんだと初めて思った。

小学生の頃にカッコイイと人気のあった子を好きだと思っるのは訳が違う。

大きな幸福感と心地よいドキドキ感

あのあと逃げるかのように家に帰って来たがずっとドキドキしている。

そこで携帯がなった

勝

「もしもし」

勝からの電話をこんなに緊張したのは多分初めてだ

「もしもし？俺。あんさー」

「ん？」

「夢ぢやないよな？」

「えっ？」

「オマエとキスしたのも付き合うつて頷いたのも夢ぢやないよな？」

ここで違うと言ったどうなるの？なかったコトに？なんでそんなコトいうの？

あたしは…あたしは…

「夢ぢやないよ。嬉しかった」

本当はもつと溢れる位に好きなのに、素直になれなくて…

素直になる方法がわからなくて…

そっけない自分…

「そっか。ありがとう。今日夜会える？」

「うん…」

「じゃ用事終わったら迎えに行くよ。またな」

夜なんて言わないで…

今会いたい…

ああそっか…

人を好きになるってこんな気持ちなんだ。

不思議だな。

昨日まで単なる幼なじみだったのに…

今思えばあたしはこの時愛されるというコトに舞い上がっていた気がする。

でもあたしは一瞬で勝が好きになっていた。

キスしたい…

キスしたい…

キスしたい…



こんな気持ち初めてだ。

早く会いたいよ…

勝から連絡が来たのは三時間後だった。

「今屋上にいる」

あたしは急いで屋上へ向かった。

「勝ッ」

付き合う前となんら変わらない姿でタバコを吸う勝。

「おいで」

今までは離れて座ってバカな話してたのに数時間前からは膝の上があたしの席になった。

膝に座ると勝がタバコを消しキスして来た。

幸せってこういうコトなんだな…



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6621c/>

---

タイムリミット

2010年10月28日08時05分発行